



## 滋賀県感染症発生動向調査 感染症週報

# 令和5年 第49週 (12/4~12/10) 【概要版】

令和5(2023)年 12月14日発行 滋賀県感染症情報センター

### 1. コメント

- インフルエンザは、前週より大きく増加し、警報発令基準を超えたため、県内全域に警報を発令します。全保健所圏域で増加傾向となっており、特に大津市、東近江保健所圏域で多く報告されています。
- 咽頭結膜熱(プール熱)は、前週より増加し、「例年より非常に多く」報告されています。特に長浜、高島保健所圏域では、警報レベルとなっています。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、前週より減少していますが、「例年より非常に多く」報告されています。特に長浜保健所圏域で多く報告されています。
- 梅毒は、年累計報告数が70例となり、令和4年の69例を超え、過去最多の報告数となりました。近年、男女共に増加傾向にあり、男性は20歳代~40歳代、女性は20歳代が多く報告されています(詳細はトピックス(詳細版6枚目)をご覧ください)。

### 2. 報告数が多かった定点把握疾患(五類感染症)<sup>i</sup>

#### (1) 滋賀県

疾病名	滋賀県						保健所別(iv)						
	2週前	1週前	今週	警報注意報(ii)	例年より多い(iii)	例年より非常に多い(iii)	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島
インフルエンザ	17.63	18.25	27.70	警	○	○	警	注	注	警	注	注	注
感染性胃腸炎	3.83	4.78	5.81		○		多	多	↑		多	多	多
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.72	2.69	2.44		○	○	↑	↑	↑	多		多	多
咽頭結膜熱	1.11	1.03	1.42		○	○	↑			↑	↑	警	警
インフルエンザ入院	1.71	1.14	0.86		○	○		多	多	多			多

#### (2) 前週の全国、滋賀県および近隣府県の状況(下線:滋賀県よりも多い)

疾患	全国	滋賀県	大阪府	京都府	福井県	岐阜県	三重県
インフルエンザ	<u>26.72</u>	18.25	17.54	<u>19.74</u>	<u>22.64</u>	<u>22.87</u>	<u>35.20</u>
感染性胃腸炎	<u>5.11</u>	4.78	<u>5.20</u>	3.64	<u>7.76</u>	3.19	3.98
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	<u>4.17</u>	2.69	<u>4.69</u>	<u>3.17</u>	<u>2.88</u>	1.74	<u>4.51</u>
咽頭結膜熱	<u>3.72</u>	1.03	<u>2.86</u>	<u>3.96</u>	<u>8.72</u>	<u>3.28</u>	<u>4.82</u>
インフルエンザ入院	<u>2.05</u>	1.14	<u>2.12</u>	1.14	<u>2.00</u>	<u>1.20</u>	<u>2.89</u>



### 3. 全数把握疾患(滋賀県、今週診断例)

類型	疾病名	滋賀県						保健所別					
		2週前	1週前	今週	例年より多い(iii)	例年より非常に多い(iii)	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島
二類	結核	1	1	2				1	1				
四類	レジオネラ症	1	1	2	○						2		
五類	侵襲性肺炎球菌感染症	0	0	1	○						1		
五類	梅毒	2	1	2	○	○	1					1	

- 定点把握疾患:人口および医療機関の分布等を勘案して滋賀県が定めた患者定点(医療機関)で患者を診断した場合に、週単位で保健所へ報告される感染症を言い、報告された症例数を患者定点の数で除した「定点当たり報告数」により、発生状況を把握しています。
- 警:警報発令、注:注意報発令
- 今週の値が過去5年の同時期(全数把握疾患は同時期の累積報告数)の「平均値」よりも多い場合に「例年より多い」、「平均値+2×標準偏差(SD)」よりも多い場合に「例年より非常に多い」と評価してそれぞれ「○」を標記(定点把握疾患の平均値は過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均を利用)
- 「警:警報開始基準を超過」、「注:注意報基準を超過」、「多:今週の滋賀県の値よりも多い」、「↑:前週比増加」(「警報」、「注意報」、「多」、「↑」の順に優先して標記)

滋賀県感染症発生動向調査 感染症週報

令和5年第49週(12/4~12/10)【詳細版】

令和5(2023)年12月14日発行 滋賀県感染症情報センター

1. コメント

- (1) インフルエンザは、前週より大きく増加し、警報発令基準を超えたため、県内全域に警報を発令します。全保健所圏域で増加傾向となっており、特に大津市、東近江保健所圏域で多く報告されています。
- (2) 咽頭結膜熱(プール熱)は、前週より増加し、「例年より非常に多く」報告されています。特に長浜、高島保健所圏域では、警報レベルとなっています。
- (3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、前週より減少していますが、「例年より非常に多く」報告されています。特に長浜保健所圏域で多く報告されています。
- (4) 梅毒は、年累計報告数が70例となり、令和4年の69例を超え、過去最多の報告数となりました。近年、男女共に増加傾向にあり、男性は20歳代~40歳代、女性は20歳代が多く報告されています(詳細はトピックス(6枚目)をご覧ください)。

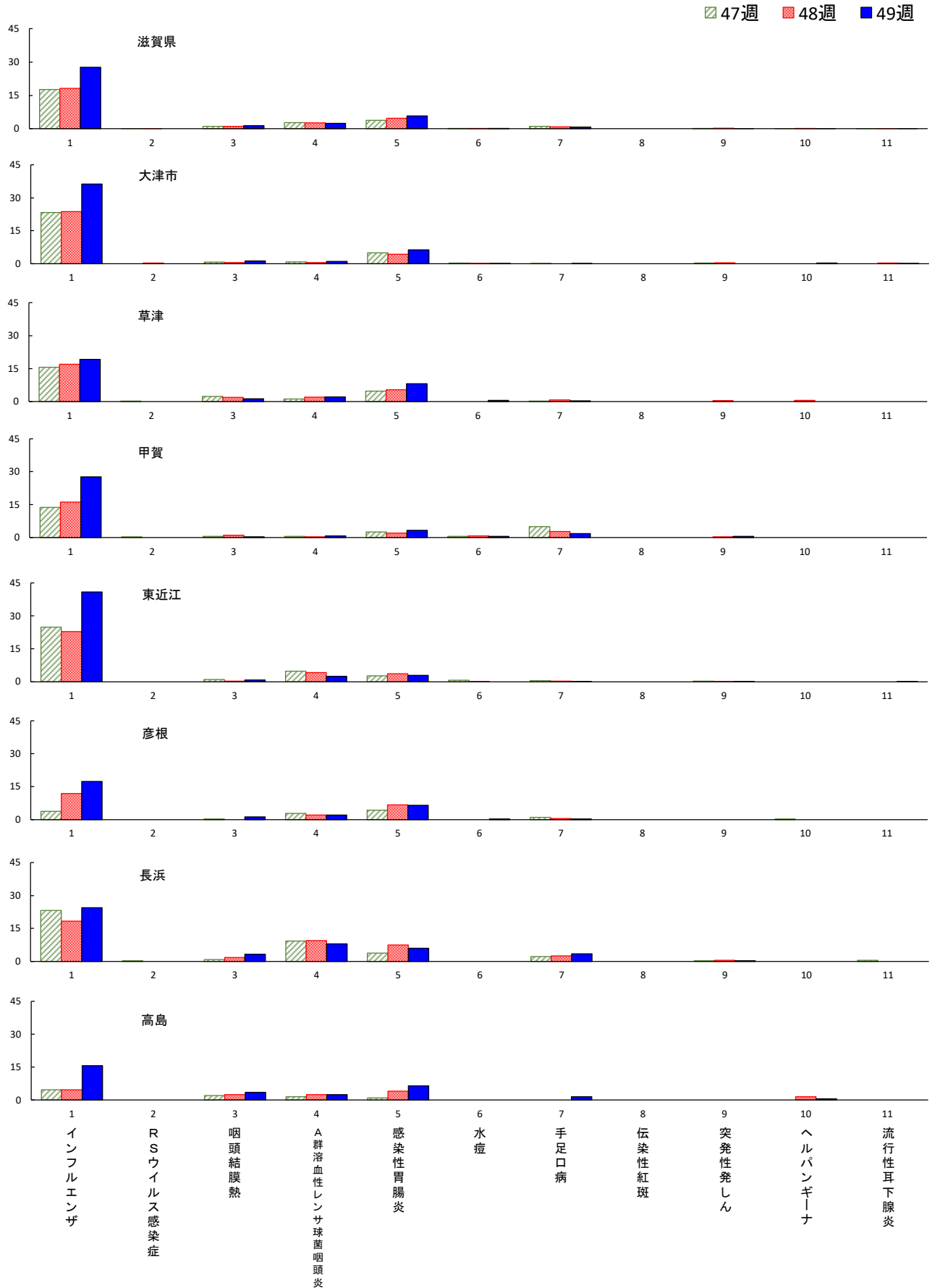
2. 定点把握疾患(五類感染症)の定点当たり報告数(全国は前週)の値<sup>i, ii, iii, iv</sup>

定点区分 (定点数)	疾病名	滋賀県			保健所別 <sup>(iv)</sup>									基準値				
		2週前	1週前	今週	警報 注意報 (ii)	例年より 多い (iii)	例年より 非常に多い (iii)	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	全国 (前週) (iv)	警報 開始	警報 終息	注意報
インフルエンザ (定点数:60 <sup>*)</sup> )	インフルエンザ	17.63	18.25	27.70	警	○	○	36.31	19.15	27.57	40.90	17.29	24.43	15.67	26.72	30	10	10
	RSウイルス感染症	0.08	0.06	0				0	0	0	0	0	0	0	0.06	-	-	-
	咽頭結膜熱	1.11	1.03	1.42		○	○	1.25	1.25	0.25	0.83	1.25	3.25	3.50	3.72	3	1	-
	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	2.72	2.69	2.44		○	○	1.00	2.13	0.75	2.50	2.00	8.00	2.50	4.17	8	4	-
	感染性胃腸炎	3.83	4.78	5.81		○		6.38	8.13	3.25	2.83	6.50	6.00	6.50	5.11	20	12	-
	水痘	0.22	0.14	0.22		○		0.13	0.50	0.50	0	0.25	0	0	0.16	2	1	1
	手足口病	1.06	0.86	0.81		○		0.13	0.25	1.75	0.17	0.25	3.50	1.50	0.50	5	2	-
	伝染性紅斑	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0	0.01	2	1	-
	突発性発しん	0.14	0.28	0.11				0	0	0.50	0.17	0	0.25	0	0.23	-	-	-
	ヘルパンギーナ	0.03	0.19	0.08				0.25	0	0	0	0	0	0.50	0.07	6	2	-
流行性耳下腺炎	0.06	0.06	0.06		○		0.13	0	0	0.17	0	0	0	0.03	6	2	3	
眼科 (定点数:8)	急性出血性結膜炎	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0	0.01	1	0.1	-
	流行性角結膜炎	0	0	0.25		○		0	0	1.00	0	1.00	0	0	1.06	8	4	-
基幹 (定点数:7)	細菌性髄膜炎	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0	0.01	-	-	-
	無菌性髄膜炎	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0	0.03	-	-	-
	マイコプラズマ肺炎	0	0.14	0.14		○		0	1.00	0	0	0	0	0	0.07	-	-	-
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
	インフルエンザ入院	1.71	1.14	0.86		○	○	0	1.00	1.00	3.00	0	0	1.00	2.05	-	-	-

※第47週(2週前)のインフルエンザ定点数は59医療機関となっています。

- i. 定点把握疾患:人口および医療機関の分布等を勘案して滋賀県が定めた患者定点(医療機関)で患者を診断した場合に、週単位で保健所へ報告される感染症を言い、報告された症例数を患者定点の数で除した「定点当たり報告数」により、発生状況を把握しています。
- ii. 定点当たり報告数が「警報開始基準値」を超える全ての保健所の管内人口の合計が、県人口全体の30%を超えた場合に滋賀県全域に警報を発令(「警」)します。また、定点当たり報告数が「注意報基準値」を超えた場合に注意報(「注」)を発令します。
- iii. 今週の値が過去5年の同時期(全数把握疾患は同時期の累積報告数)の「平均値」より多い場合に「例年より多い」、「平均値+2×標準偏差(SD)」より多い場合に「例年より非常に多い」と評価してそれぞれ「○」を標記(定点把握疾患の平均値は過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均を利用)
- iv. **赤字斜字**:警報開始基準を超過、**紫字斜字**:注意報基準を超過

### 3. 定点把握疾患（五類感染症）の保健所別推移（滋賀県、今週と過去2週）



### 4. 定点把握疾患（五類感染症）の年齢階級別報告数（滋賀県、今週）

インフルエンザ定点 (60医療機関)	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳～
インフルエンザ	1662	8	11	41	53	68	82	95	97	127	118	100	367	93	91	99	81	53	36	20	22
大津市保健所	472	-	1	10	13	17	16	17	15	24	22	21	101	37	45	47	36	25	11	7	7
草津保健所	249	-	1	5	12	12	14	14	14	13	15	20	57	16	10	21	9	6	8	-	2
甲賀保健所	193	2	2	10	7	7	9	8	14	19	14	10	38	10	4	10	4	9	4	5	7
東近江保健所	409	3	2	5	15	16	23	34	27	45	39	38	94	13	17	8	16	4	7	-	3
彦根保健所	121	-	3	1	2	6	9	5	7	7	14	3	24	8	5	7	9	4	4	3	-
長浜保健所	171	3	2	10	4	8	10	16	20	16	12	8	37	4	7	3	2	3	-	4	2
高島保健所	47	-	-	-	-	2	1	1	-	3	2	-	16	5	3	3	5	2	2	1	1

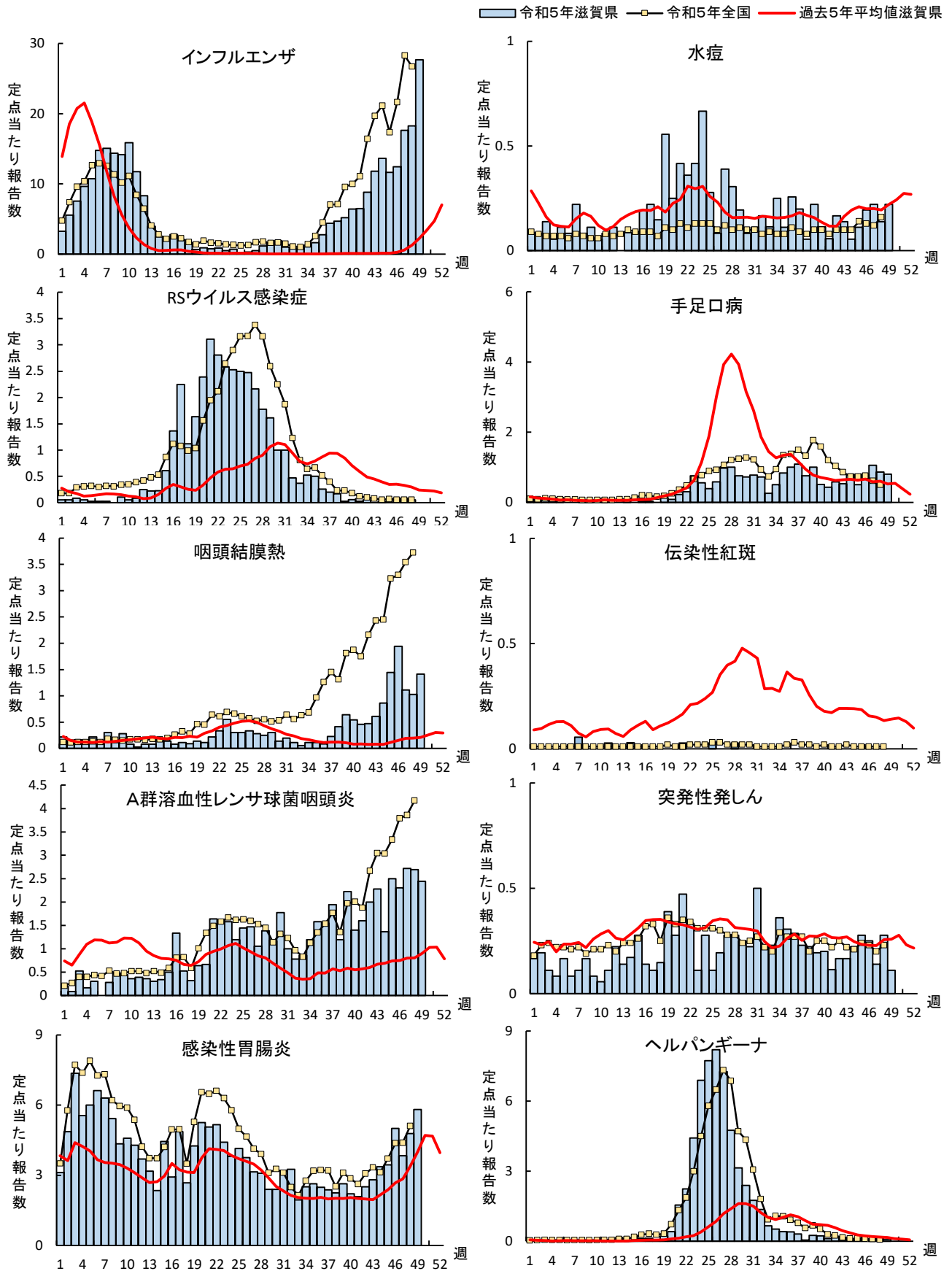
小児科定点 (36医療機関)	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱 (プール熱)	51	-	-	9	10	11	6	5	1	-	1	1	5	-	2
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	88	-	-	3	1	8	12	9	12	16	9	4	8	-	6
感染性胃腸炎	209	1	7	33	35	23	26	28	11	14	11	9	9	-	2
水痘	8	-	-	3	-	-	-	-	2	-	-	1	1	-	1
手足口病	29	-	3	4	4	6	4	2	5	1	-	-	-	-	-
伝染性紅斑 (リンゴ病)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん	4	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	3	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-

眼科定点 (8医療機関)	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-

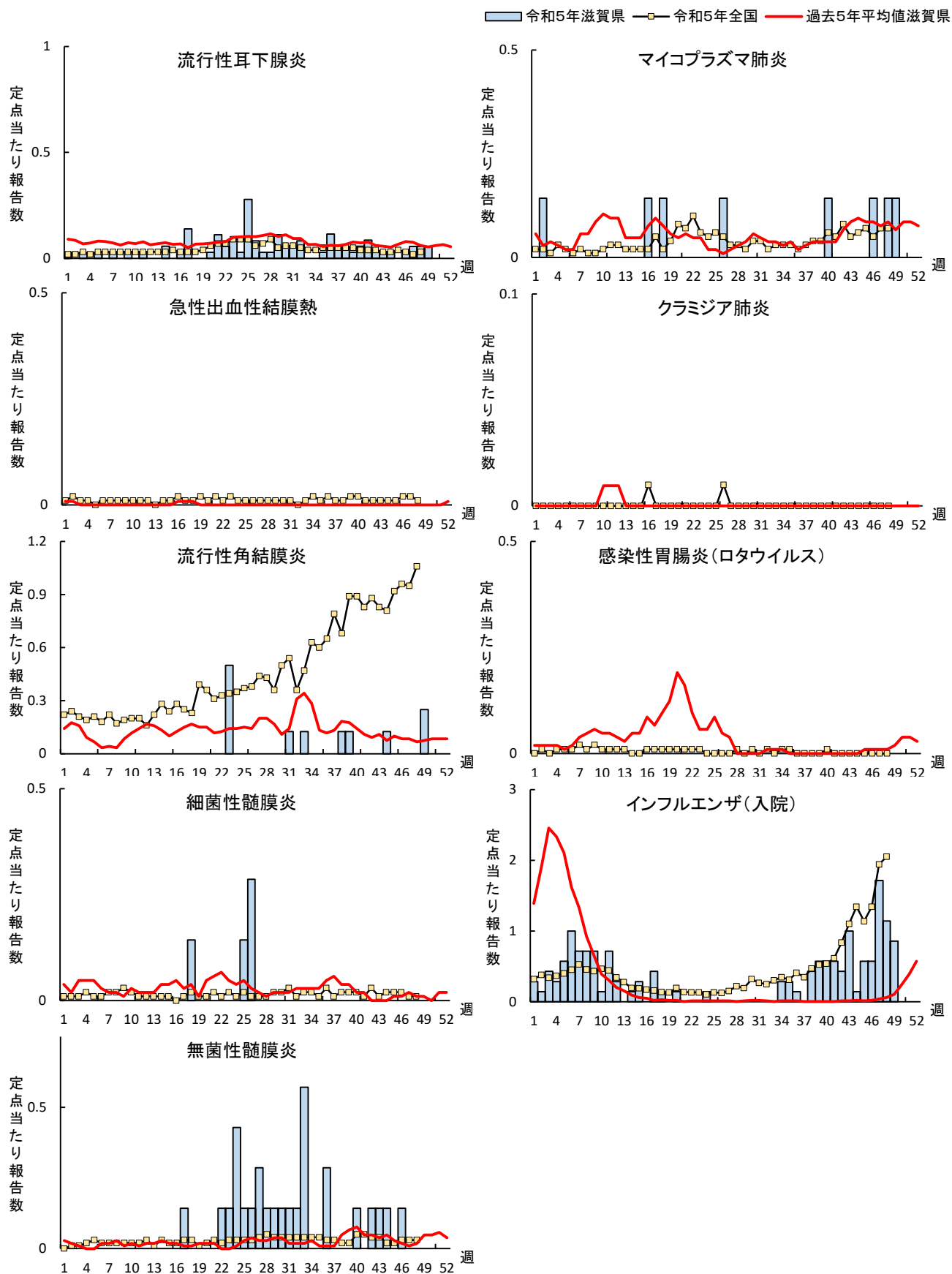
基幹定点 (7医療機関)	総数	0歳	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
インフルエンザ入院	6	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3

「-」: 報告なし

### 5-1. 定点把握疾患（五類感染症）の発生動向（全国は前週まで掲載）



## 5-2. 定点把握疾患（五類感染症）の発生動向（全国は前週まで掲載）



## 6. 全数把握疾患 詳細情報（今週報告例）<sup>v</sup>

類型	疾患	診断週	保健所	年齢	性別	病型等	推定感染地	病原体等
二類	結核	49	草津	10歳未満	女	無症状病原体保有者	-	-
	結核	49	甲賀	70歳代	男	肺結核	県内	-
四類	レジオネラ症	49	彦根	60歳代	男	肺炎型	県内	-
	レジオネラ症	49	彦根	60歳代	男	肺炎型	県内	-
五類	侵襲性肺炎球菌感染症	49	彦根	10歳代	男	-	県内	ワクチン接種歴不明
	梅毒	49	大津市	40歳代	女	無症状病原体保有者	県内	-
	梅毒	49	長浜	30歳代	男	早期顕症梅毒Ⅰ期	県内	-

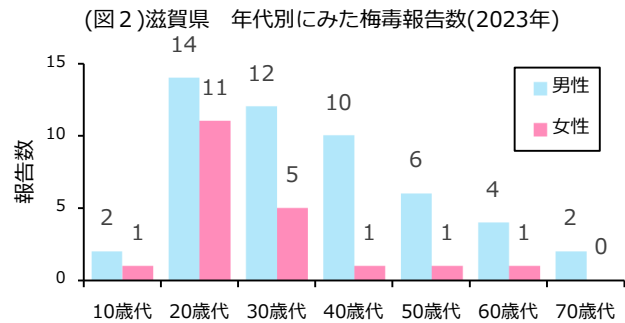
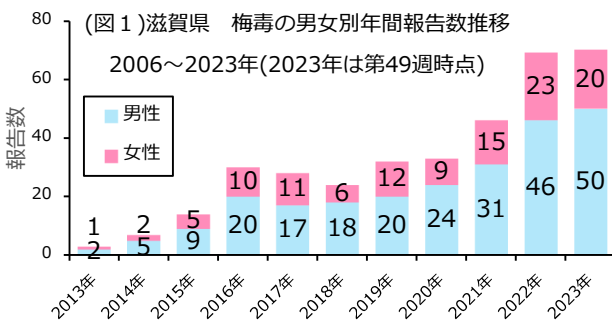
v. 感染症発生動向調査事業において、一～四類および五類感染症の全数報告対象の感染症が、診断した医師から最寄りの保健所へ届出されています。

### トピックス:「梅毒が過去最多を更新」

#### ■ 滋賀県の梅毒の発生動向

滋賀県における梅毒の報告数は、2023年第49週(～12/10)時点で70人となり、2022年の69人を上回って、現在の方法で統計を取り始めた1999年(平成11年)以来、最も多くなりました。

男性の報告数が多くなっていますが、男女共に増加傾向にあります(図1)。2023年の男性では、20歳代～40歳代で多く(図2)、昨年と同様の傾向となっています。女性では、特に20歳代が多く、第49週時点で11人(図2)と2022年の年間累計7人を上回っています。



#### ■ 梅毒とは？

梅毒は、梅毒トレポネーマという病原体による感染症で、主に性的な接触によりうつる感染症です。早期の薬物治療で完治が可能です。

梅毒に感染すると、性器や口の中に小豆から指先くらいのしこりができたり、痛み、かゆみのない発疹が手のひらや体中に広がる場合があります。治療せずに放置していると、数年から数十年の間に心臓や血管、脳などの複数の臓器に病変が生じ、時には死にいたることもあります。

特に妊娠中の梅毒は危険です。妊娠している人が梅毒に感染すると、妊婦だけでなく胎盤を通じて胎児に感染し、死産、早産になったり、産まれてくる子どもの神経や骨などに異常をきたすことがあります(先天梅毒)。また、生まれた時に症状がなくても、遅れて症状が出ることもあります。

#### ■ 予防と対策

- ・コンドームの適切な使用により性感染症のリスクを減らすことができます。
- ・症状がある時や、不安な時は、自分自身と大切なパートナーを守るためにも、早めに検査をしましょう。保健所で匿名・無料で検査を受けることができます。詳しくは滋賀県のホームページをご覧ください。
- ・感染が判明した場合はパートナーも検査を受けましょう。
- ・多数の相手と性的接触を持つと、感染するまたは感染させるリスクが高まります。
- ・梅毒は、早期に治療をすれば注射薬や内服で直すことができます。

《参考》

・梅毒(厚生労働省)

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryou/kenkou/kekaku-kansenshou/seikansenshou/syphilis.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekaku-kansenshou/seikansenshou/syphilis.html)

・梅毒(滋賀県)

<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kenkouiryuhukushi/yakuzi/15220.html>

## 7. 全数把握疾患の累積患者報告数 保健所別（令和5年）<sup>vi, vii</sup>

疾患	滋賀県			保健所別累積報告数							全国	昨年累積報告数	
	例年より多い	例年より非常に多い	累積報告数	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	(前週)	滋賀県	全国
二類 結核			116	33	22	12	14	16	11	8	13479	158	14798
			8.23	9.55	6.29	8.49	6.23	10.39	7.41	17.71	10.80	11.20	11.79
三類 腸管出血性大腸菌感染症			37	3	8	5	11	6	4	0	3653	46	3370
			2.63	0.87	2.29	3.54	4.89	3.90	2.69	0.00	0.36	3.26	2.69
四類 E型肝炎			1	0	1	0	0	0	0	0	500	0	435
			0.07	0.00	0.29	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.36	0.00	0.35
A型肝炎	○	○	3	1	0	0	0	1	1	0	50	0	69
			0.21	0.29	0.00	0.00	0.00	0.65	0.67	0.00	0.36	0.00	0.05
つつが虫病	○		1	0	0	0	0	0	1	0	305	1	492
			0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.67	0.00	0.24	0.07	0.39
レジオネラ症	○		31	7	4	4	3	10	1	2	2118	33	2143
			2.20	2.03	1.14	2.83	1.33	6.49	0.67	4.43	1.70	2.34	1.71
五類 アメーバ赤痢			6	2	0	0	0	1	3	0	442	9	533
			0.43	0.58	0.00	0.00	0.00	0.65	2.02	0.00	0.35	0.64	0.42
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	○		19	6	8	0	3	0	2	0	1938	20	2015
			1.35	1.74	2.29	0.00	1.33	0.00	1.35	0.00	1.55	1.42	1.61
急性脳炎	○		7	5	1	0	0	0	1	0	563	1	399
			0.50	1.45	0.29	0.00	0.00	0.00	0.67	0.00	0.45	0.07	0.32
クリプトスポリジウム症	○	○	1	0	0	0	0	1	0	0	11	0	7
			0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.65	0.00	0.00	0.01	0.00	0.01
クロイツフェルト・ヤコブ病			2	1	1	0	0	0	0	0	149	2	172
			0.14	0.29	0.29	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.12	0.14	0.14
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	○		13	5	3	0	2	0	3	0	810	15	708
			0.92	1.45	0.86	0.00	0.89	0.00	2.02	0.00	0.65	1.06	0.56
後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)			3	2	0	1	0	0	0	0	857	5	893
			0.21	0.58	0.00	0.71	0.00	0.00	0.00	0.00	0.69	0.35	0.71
侵襲性インフルエンザ菌感染症	○		7	2	1	0	2	1	1	0	501	3	211
			0.50	0.58	0.29	0.00	0.89	0.65	0.67	0.00	0.40	0.21	0.17
侵襲性肺炎球菌感染症	○		23	8	4	0	6	2	3	0	1697	19	1347
			1.63	2.32	1.14	0.00	2.67	1.30	2.02	0.00	1.36	1.35	1.07
水痘(入院例)	○		9	2	1	0	3	0	3	0	363	6	327
			0.64	0.58	0.29	0.00	1.33	0.00	2.02	0.00	0.29	0.43	0.26
梅毒	○	○	70	17	23	9	9	2	10	0	13788	69	13221
			4.97	4.92	6.57	6.37	4.00	1.30	6.74	0.00	11.05	4.89	10.53
播種性クリプトコックス症	○		2	2	0	0	0	0	0	0	157	2	159
			0.14	0.58	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.13	0.14	0.13
破傷風	○	○	2	0	1	0	0	0	1	0	99	0	96
			0.14	0.00	0.29	0.00	0.00	0.00	0.67	0.00	0.08	0.00	0.08
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	○		1	1	0	0	0	0	0	0	112	0	133
			0.07	0.29	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.09	0.00	0.11
百日咳			15	15	0	0	0	0	0	0	922	9	491
			1.06	4.34	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.74	0.64	0.39
薬剤耐性アシネトバクター感染症	○	○	1	0	0	0	0	0	1	0	13	0	13
			0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.67	0.00	0.01	0.00	0.01

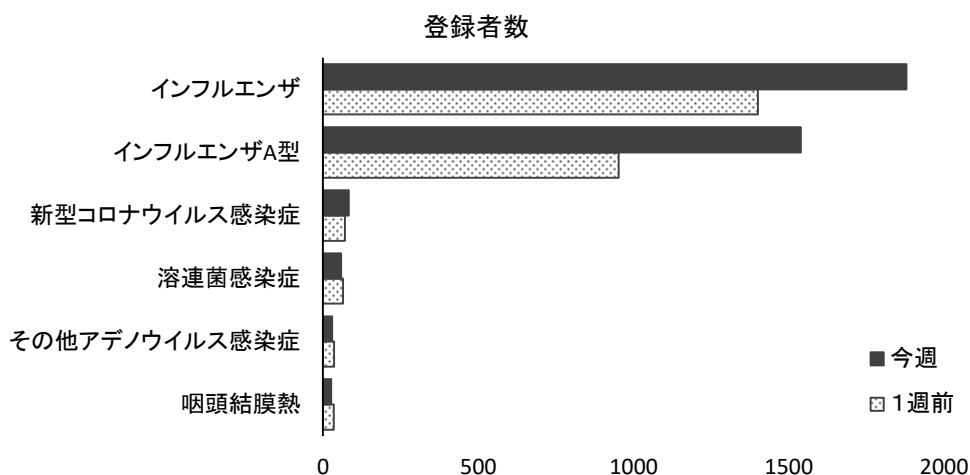
vi. 今年第1週以降に診断された感染症の累積報告数を全国、滋賀県および保健所別に示しています。上段に「今年累積報告数」、下段に「人口10万人当たりの累積報告数」を示しています。

vii. 今年と過去5年の同時期の累積報告数の「平均値」より多い場合に「例年より多い」、または「平均値+2×標準偏差(SD)」より多い場合に「例年より非常に多い」と評価してそれぞれ「○」で標記



## 【参考】今週の学校欠席者情報収集システム（保育園サーベイランス含む）概況（滋賀県）

滋賀県では、園および学校等により、感染症による欠席者等の情報を学校等欠席者・感染症情報収集システム([https://scl11.953862.net/schoolkoukai/view\\_all.php](https://scl11.953862.net/schoolkoukai/view_all.php))へ毎日入力いただいています。入力いただいたデータを、本感染症週報と同期間について、集計して掲載しています。



図：学校欠席者情報収集システム（保育園サーベイランス含む）において登録数の多い疾患

### 【全国情報】国立感染症研究所 感染症疫学センターHPに掲載されています。

感染症発生動向調査 週報 (IDWR)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/idwr.html>

病原微生物検出情報 (IASR)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html>

インフルエンザ様疾患発生報告 (学校欠席者数)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/flu-flulike.html>

### 【届出対象疾患】厚生労働省 HPに掲載されています。

感染症法に基づく医師の届出のお願い

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/kekaku-kansenshou11/01.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/kekaku-kansenshou11/01.html)

滋賀県感染症発生動向調査週報は、感染症法に基づいて県内の医師、定点医療機関および県内各保健所より報告されたデータを用いて、滋賀県衛生科学センター健康科学情報係において作成しています。

本情報は滋賀県感染症情報センターホームページに掲載しております。

滋賀県感染症情報センターHP:

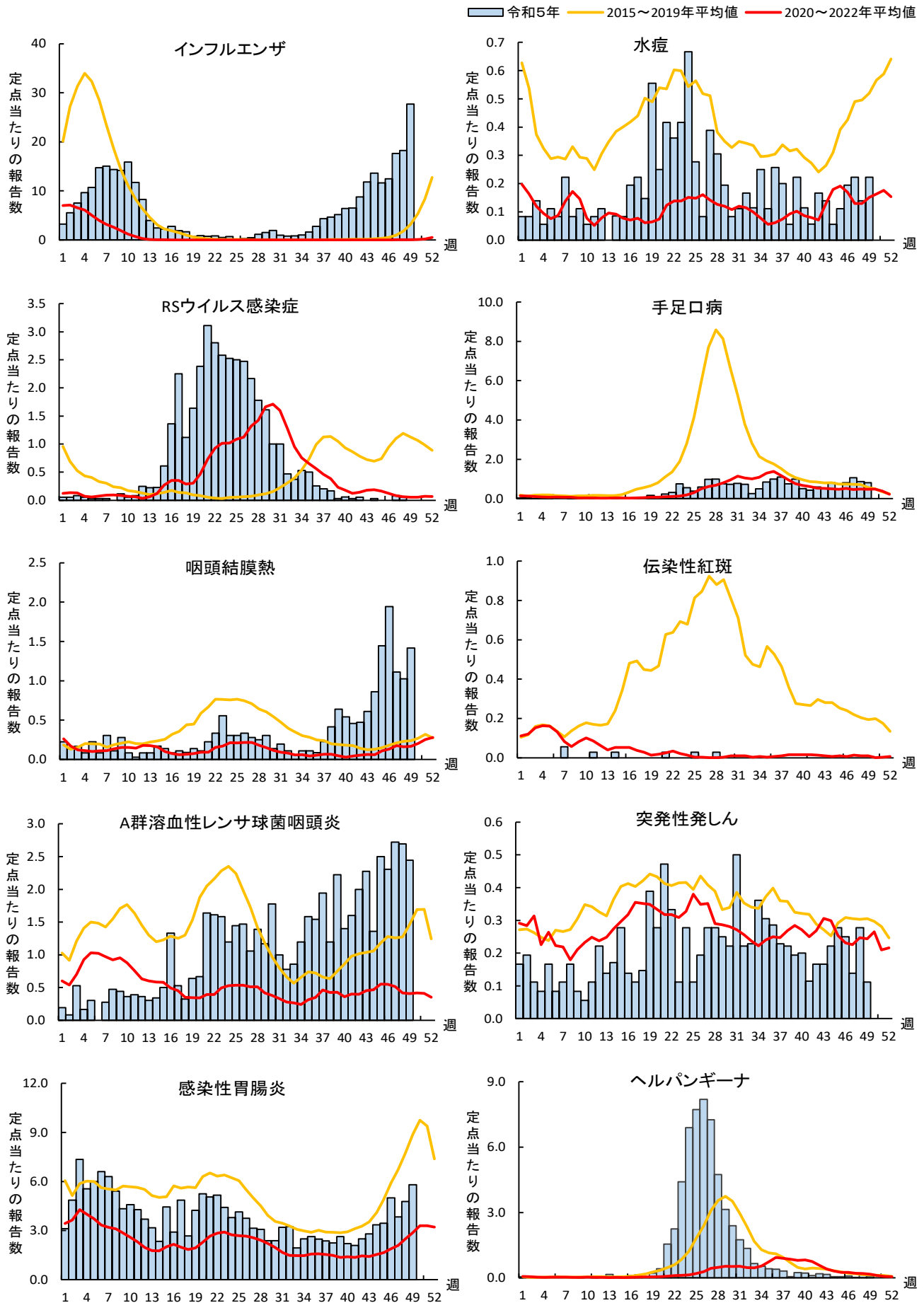
<https://www.pref.shiga.lg.jp/eiseikagaku/kansensyou/>



イラストは滋賀県健康づくりキャラクター「しがのハグ&クミ」

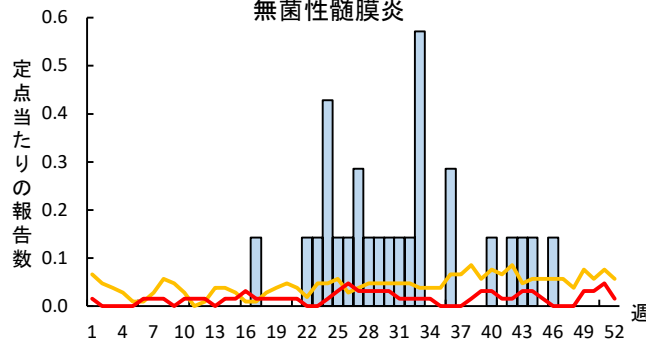
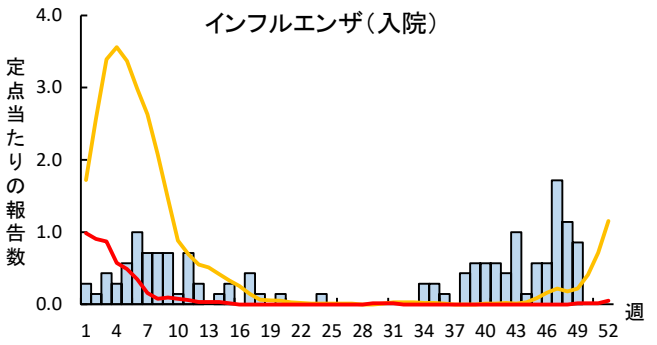
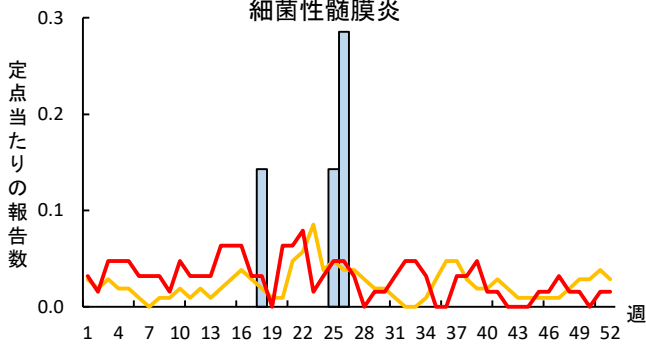
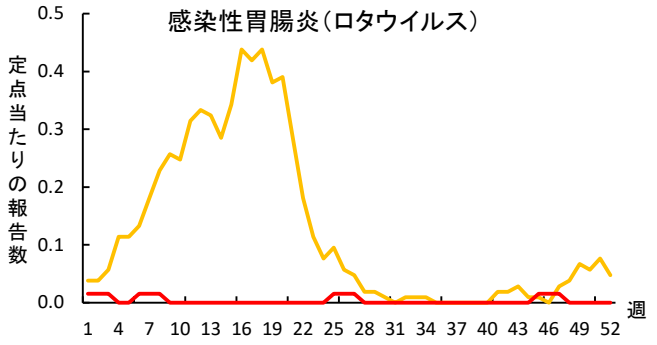
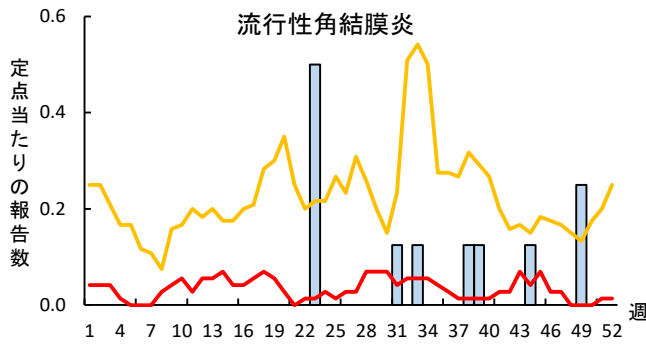
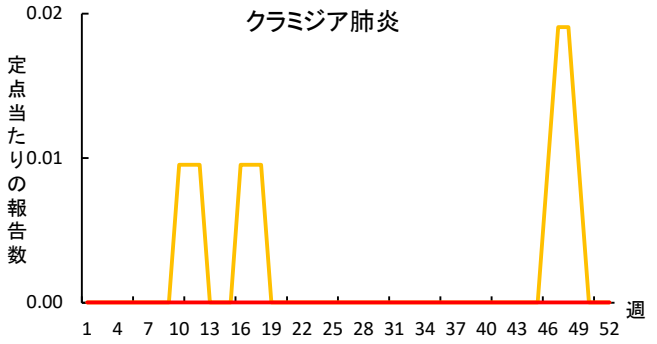
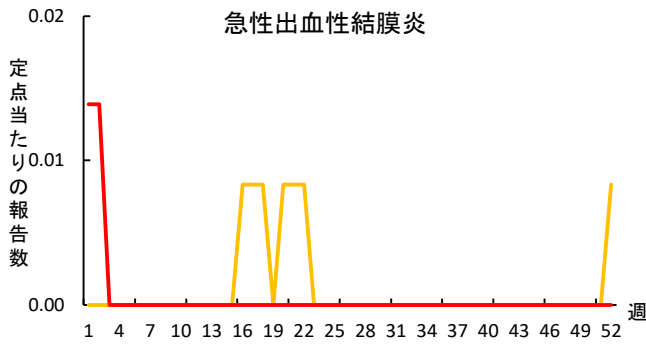
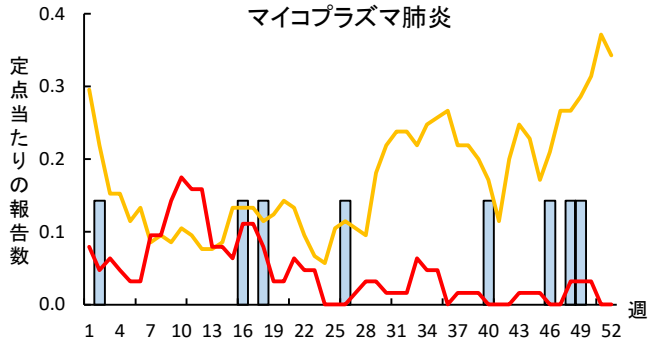
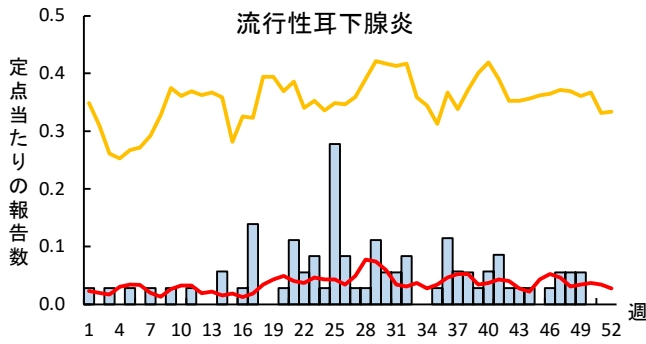
**【参考】 定点把握疾患の発生動向（滋賀県、令和5年とCOVID-19 前後の平均値）**

COVID-19 流行により 2020 年以降の感染症発生動向に変化が見られたため、今年の発生動向と流行前(2015～2019年)と流行後(2020～2022年)の発生動向を比較できるようにグラフを掲載します。

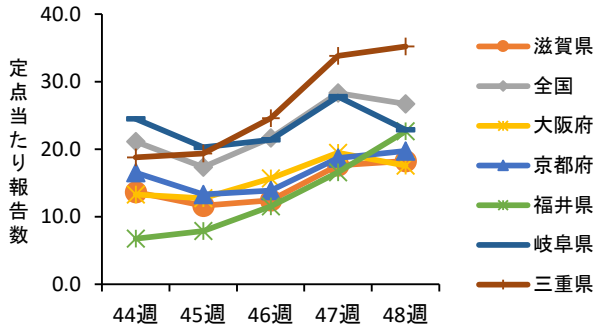
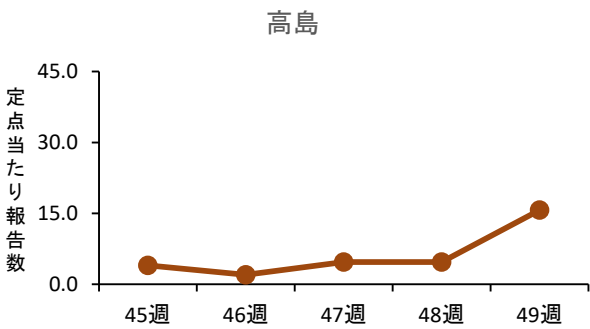
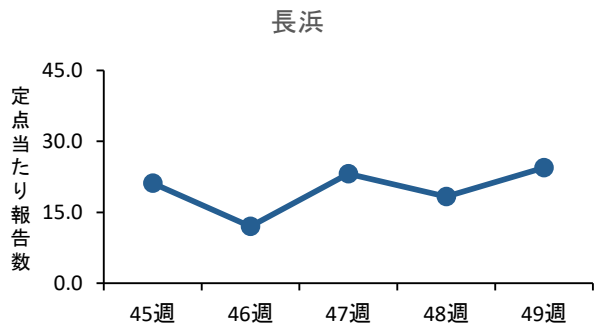
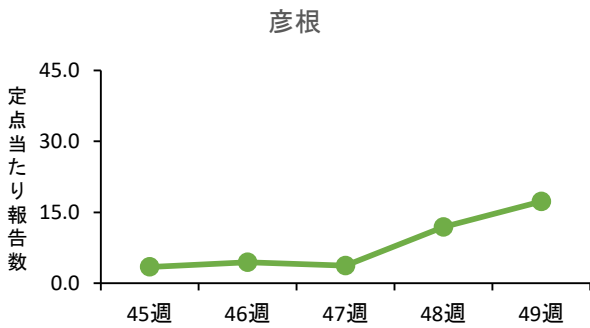
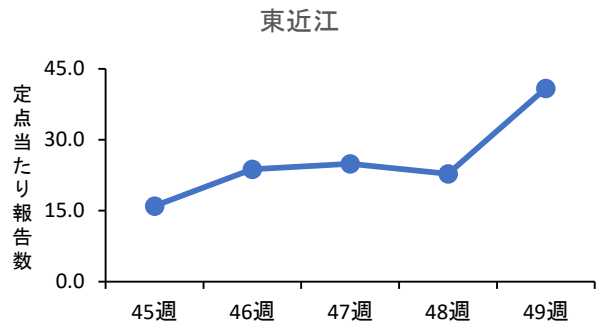
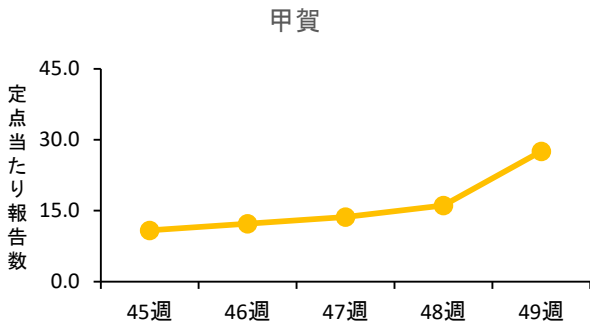
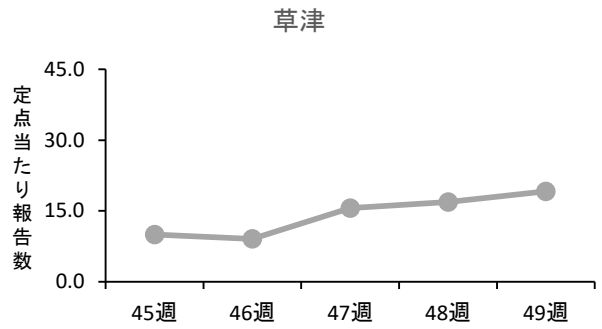
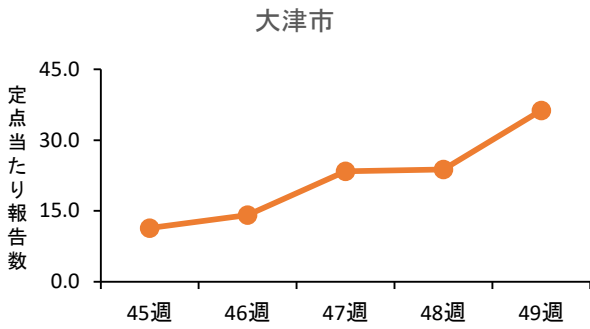
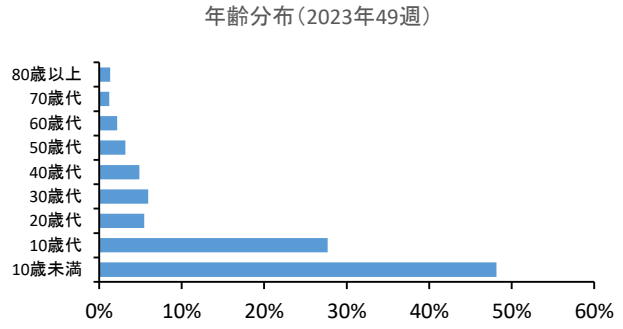
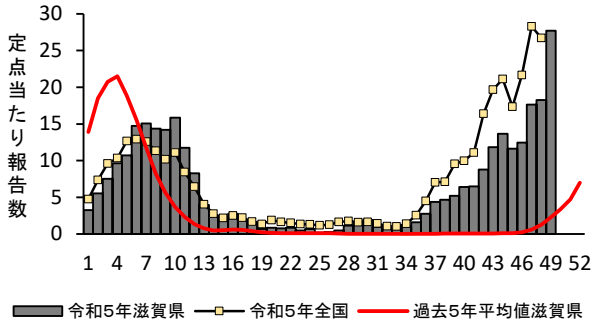


【参考】 定点把握疾患の発生動向（滋賀県、令和5年とCOVID-19 前後の平均値）

令和5年 2015～2019年平均値 2020～2022年平均値



# 滋賀県 インフルエンザ感染動向 令和5年第49週



滋賀県感染症発生動向調査 感染症週報

令和 5 年第 49 週 (12/4~12/10) 【COVID-19 情報】

令和 5 (2023) 年 12 月 14 日発行 滋賀県感染症情報センター

1. コメント

- ・滋賀県の定点あたりの報告数は 3.08 で、前週より増加しています。
- ・多くの年代で前週より増加しています。特に 70 歳以上の報告数が増えています。
- ・大津市、高島保健所圏域で増加傾向が見られますが、他保健所圏域では横ばいまたは減少しています。
- ・入院サーベイランスおよび学校欠席者情報収集システムの報告数は増加しています。昨年は 12 月に増加が見られたことから今後の動向に注視が必要です。

2. COVID-19 の定点当たり報告数 (全国は前週) の値

定点当たりの報告数とは、定点医療機関からの 1 週間の報告数を定点医療機関数で割った値のことで、1 医療機関当たりの報告数のことです。(COVID-19 の例: 1 週間の報告数 200 ÷ 60 ≒ 3.33)

定点区分 (定点数)	疾病名	滋賀県			保健所別							全国 (前週)
		2週前	1週前	今週	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	
COVID-19 (定点数:60※)	COVID-19	2.37	2.35	3.08	4.08	2.31	3.29	2.30	3.14	3.00	4.33	2.75
基幹 (定点数:7)	COVID-19入院	1.71	1.14	5.43	2.00	9.00	12.00	1.00	6.00	6.00	2.00	2.12

※第 47 週 (2 週前) の COVID-19 定点数は、滋賀県 59 医療機関となっています。

3. COVID-19 の年齢階級別報告数 (滋賀県、今週)

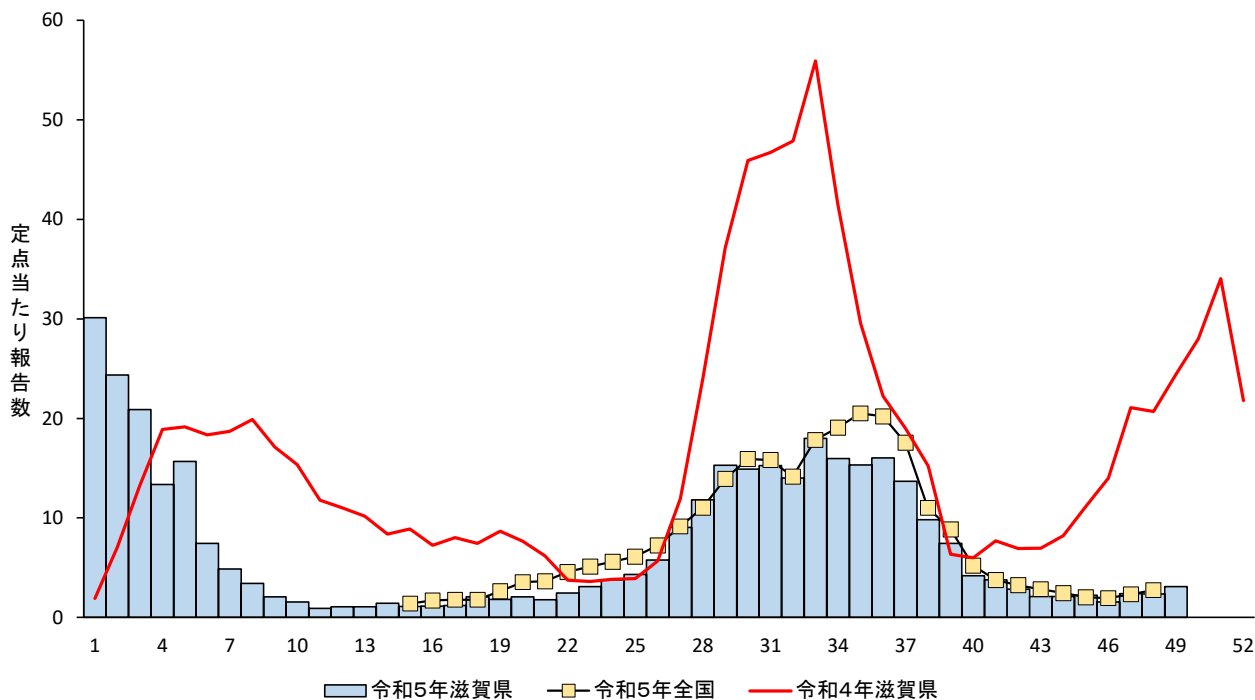
「-」: 報告なし

COVID-19 定点	総数	~5ヶ月	~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳~
COVID-19 (60医療機関)	185	3	-	5	3	1	2	2	2	2	2	1	10	8	10	19	20	11	22	16	46
大津市保健所 (13医療機関)	53	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	4	13	3	5	9	5	9
草津保健所 (13医療機関)	30	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	2	5	2	3	2	12
甲賀保健所 (7医療機関)	23	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	1	1	2	3	1	10
東近江保健所 (10医療機関)	23	1	-	3	2	-	1	-	1	1	1	-	1	1	1	-	5	-	1	1	3
彦根保健所 (7医療機関)	22	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	2	2	1	1	2	2	2	6
長浜保健所 (7医療機関)	21	-	-	-	-	-	-	2	-	-	1	1	2	-	-	1	1	-	2	5	6
高島保健所 (3医療機関)	13	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	2	2	-	1	4	-	2	-	-
COVID-19入院 (7医療機関)	38	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	6	7	22

【COVID-19 入院について】

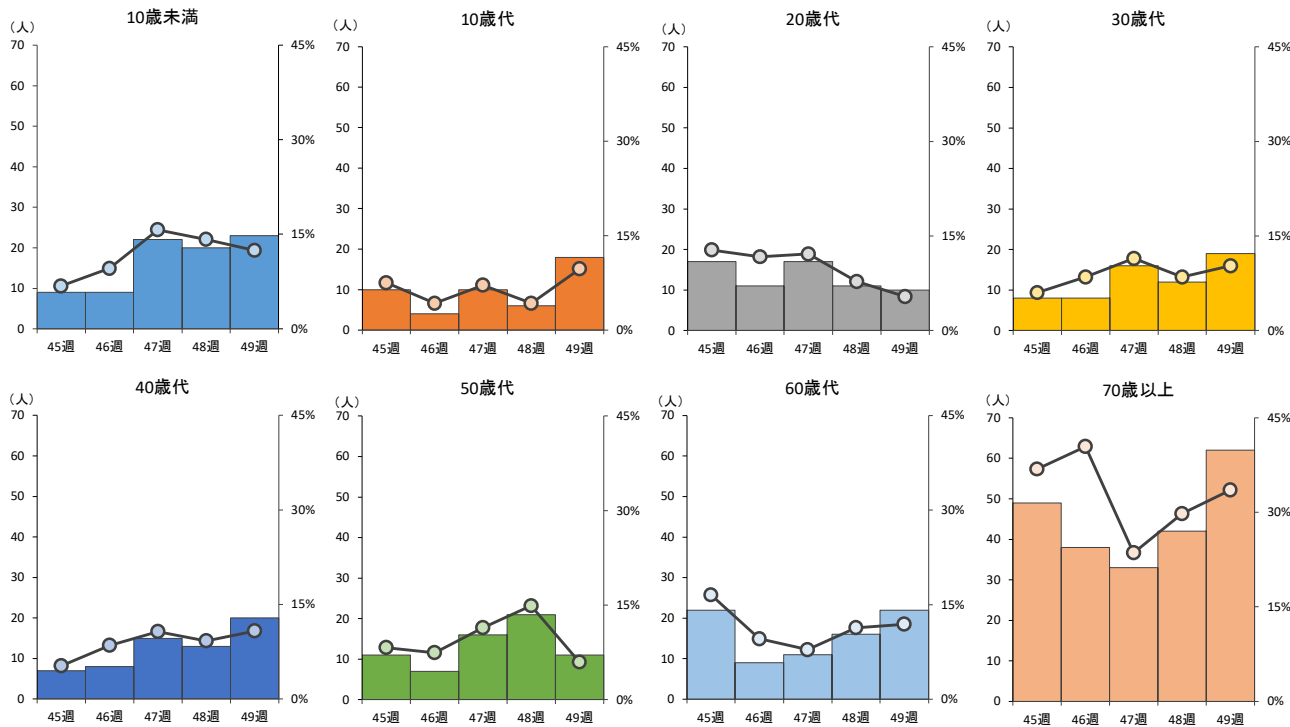
第 39 週 (9/25~10/1) より COVID-19 の入院サーベイランスが開始となりました。入院サーベイランスは、基幹定点医療機関 (7 医療機関) から COVID-19 と診断され入院となった患者数を 1 週間 (月~日曜日) ごとに報告いただき、COVID-19 による入院患者の発生動向や重症化の傾向を把握することを目的としたものです。

#### 4. 滋賀県と全国の COVID-19 の発生動向 (全国は前週まで掲載)



#### 5. COVID-19 の年齢階級別推移 (滋賀県)

棒グラフ (左軸): 報告数 (人) 折れ線グラフ (右軸): 全年齢に占める割合 (%)



## 6. COVID-19の発生動向・保健所別推移等（全国・他府県は前週まで掲載）

